

庄内緑地の管理運営状況

1 基本情報

<所管局：緑政土木局>

指定管理者名	名古屋市みどりの協会・ミズノグループ		
主な業務内容	庄内緑地の管理運営業務		
施設の所在地	名古屋市西区山田町大字上小田井字敷地3527		
評価対象期間	令和3年4月～令和4年3月	指定管理期間	平成30年4月～令和5年3月

2 評価結果

評価項目			評価区分	特記事項
管理体制及び協働	1 管理体制	職員配置	○	新型コロナウイルス対策を適切に実施し、8月の豪雨時に独自の警戒態勢を実施した。 また、庄内緑地を美しくする会やドックランボランティアなど地域との協力体制が確立されており、園内の維持管理向上につとめた。また、スポンサー花壇を新設。初夏の華まつりや秋の華まつりでは新たに名古屋芸術大学と連携イベントを実施した。
		緊急時の体制		
		人材育成等		
	2 協働	市民等との協働		
維持・管理運営等	1 維持管理	園内清掃	◎	公園管理と利用実態、安全の総合的な観点から優先順位を決めて計画的に修繕を行い、施設の長寿命化のため、公園等の塗装修繕、空調機の修繕、一部照明のLED化及び温室のボイラーポンプの修繕等を実施した。 植物管理では、新品種のバラやヒマワリを植栽し新たな魅力アップを図った。 また、過密状態の公園樹木を樹林地再生計画と樹木医の指導に基づき、維持管理に努めている。
		建物・設備の管理		
		保守・点検・修繕		
		植物管理		
		管理水準の維持		
		関係書類の調製・保管		
	2 運営管理	利用者アンケートの実施	○	スケートパークでのヘルメット着用強化月間を実施したり、無料ロッカーや休憩コーナーの設置、タンデム自転車の増設や土日祝のキッチンカーの設置を行うなど利用者マナーや利用者サービスの向上に努めた。
		利用者ニーズの把握と反映		
		利用者サービス向上策		
		接客・接遇向上の取組み		
		苦情・要望に対する適切な処理		
		個人情報適切な管理		
	3 この施設特有の管理	緑の普及・啓発事業への取組み		樹林地再生計画を完成させ、園内樹木の過密化対策を行い、環境や生態系に配慮した維持管理に取り組んでいる。
		めざす公園像への取組み		
	4 魅力増進・利用促進	魅力の増進策	◎	コロナ禍において、名古屋芸術大学と連携した園内マップを作成により魅力向上に努め、実施可能なイベントや講習会を開催し、過去最高の入園者124.4万人となった。 また、スケートパークの登録者数が約1.3万人強となった。
		イベント等の実施		
		講習会等の実施		
		利用者への広報・情報提供の実施		
		利用者数の増加		
	5 収納金の処理業務	現金等の取扱い	○	還付事務が増大したが、適切に現金の管理、書類の作成等が行われた。
		関係書類の調製・保管		
	自主事業	1 自主事業	事業計画に基づく自主事業の実施	○
集客対策への効果				
自主事業の収支及び還元				
便益施設の管理運営				
収支	1 収支	経費節減策	○	
		年間収支		
その他	1 その他	法令・協定の遵守	○	
		事業計画との比較分析		

【総合評価】

コロナの状況に応じた対応が求められる中で、様々な感染症対策を行い、利用者の安全確保とサービスの維持に努め、名古屋芸術大学との連携事業や利用者ニーズに対応したスポーツに関連するメニューやきめ細かい快適緑地空間の促進等実施した結果、利用者の幅の拡大につながり過去最高の入園者数を記録している。また、駐車場の出庫時間の改善等、利用者のニーズに応え、さらには、生物多様性等への取組によりなごや環境大学SDG s /SDG s フィールドに登録された点は評価できる。

除草管理において、水準表以上の回数を実施し良好な状態の維持に努め、庄内緑地樹林地計画を作成し、大学等の専門家の協力を得ながら計画的な樹木管理に努めた点も評価できる。

過去最高の入園者数を記録したが、入園者が多い程コロナ感染リスクは高まるため、引き続き、細心の注意で管理運営に臨んで頂くとともに、利用目的が異なる来園者同士の円滑な調整などに留意し、引き続き、地域との連携やSNS等を活用した情報発信に取り組まれたい。

施設の現状

庄内緑地

施設の現状

施設概要							
庄内緑地は、庄内川の小田井遊水地を利用した公園で、昭和43年12月の都市計画事業認可以来「水と緑と太陽」をテーマに、野趣あふれる総合公園として整備を進めてきました。 緑地内には、約3.5haある市内有数の芝生広場を中心に、わんぱく広場、バラ園、ピクニック広場、シンボルツリー(ケヤキ)などがあります。 庄内緑地グリーンプラザは、余暇時間の増大、高齢化社会の到来など社会情勢の変動に伴い健康の維持増進や緑への関心が高まっている状況をふまえ、庄内緑地の核となる施設として建設されたものです。緑豊かな環境のなかで、自然とふれあいながら健康運動ができる室内広場のほか、温室、緑の相談コーナーなどの緑化普及啓発施設を併せ持つユニークな複合的施設です。							
市の収支状況(千円) (3年度決算見込み額)							
支出			収入				利用料金
指定管理料	その他	計	使用料	その他特定財源	一般財源	計	
140,464	-	140,464	10,668	-	129,796	140,464	-
特記事項							

管理運営指標の状況

取組状況						
指標		単位	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度
講習会受講者数		人	5,251	5,140	2,048	3,071
入館者数		人	430,810	440,171	389,683	497,645
特記事項						

※支出のうち「その他」欄は、経常修繕費を記載

評価シート（指定期間を通じた評価）

庄内緑地における指定管理者の管理運営実績

1 基本情報

<所管局：緑政土木局>

指定管理者	名古屋市みどりの協会・ミズノグループ
主な業務内容	庄内緑地の管理運営業務
評価対象期間	平成30年4月～令和4年3月

2 管理運営状況（評価結果の推移）

評価項目		評価区分				特記事項
1 管理体制及び協働	30年度	元年度	2年度	3年度	【30年度】企業とのタイアップや新たなボランティアの導入、福祉施設との協働作業など、協力体制の強化に努めている。	
職員配置	○	○	○	○	【元年度】地域との協働活動を堅実に実施するとともに、スポンサー花壇を新たに設けるなど着実に協力団体を伸ばしている。	
緊急時の体制					【2年度】新型コロナウイルス対策を適切に実施した。ツバキやウメの剪定、サクラの保護等、公園の維持管理に適した研修を積極的に受講している。また、コロナ禍でボランティア活動が制限される中、可能な範囲で活動するとともに新しいスポンサー花壇も設置された。	
人材育成等					【3年度】新型コロナウイルス対策を適切に実施し、8月の豪雨時に独自の警戒態勢を実施した。また、庄内緑地を美しくする会やドックランボランティアなど地域との協力体制が確立されており、園内の維持管理向上につとめた。また、スポンサー花壇を新設。初夏の華まつりや秋の華まつりでは新たに名古屋芸術大学と連携イベントを実施した。	
市民等との協働						
2 維持管理	30年度	元年度	2年度	3年度	【30年度】老朽化した施設の修繕や大規模な土壌改良などを積極的に行っており、施設の保全に対する意欲が伺える。台風時の復旧作業を迅速に行った。	
園内清掃	○	○	◎	◎	【元年度】ケヤキの樹勢回復やバラ園の改善、ハナショウブ園の再生、ガマ池の池干しなど、公園の魅力向上のための取り組みを積極的に行った。また、新しく管理施設となったスケートパークの維持管理を堅実にを行うとともに、既存施設の修繕工事を計画的に実行した。	
建物・設備の管理					【2年度】施設の老朽化が進み、修繕の必要な施設が増える中、優先順位をつけて計画的に修繕を行った。除草・芝刈り等に関し、水準以上の維持管理を行うとともに、BBQシーズンには重点的に巡視・清掃を行うなど園内美化に努めた。また、課題となっているハナショウブ園の給水路を整備したり、過密状態の樹木について再生計画を策定するなど、課題意識を持って維持管理に努めている。	
保守・点検・修繕					【3年度】公園管理と利用実態、安全の総合的な観点から優先順位を決めて計画的に修繕を行い、施設の長寿命化のため、公園等の塗装修繕、空調機の修繕、一部照明のLED化及び温室のボイラーポンプの修繕等を実施した。植物管理では、新品種のバラやヒマワリを植栽し新たな魅力アップを図った。また、過密状態の公園樹木を樹林地再生計画と樹木医の指導に基づき、維持管理に努めている。	
植物管理						
管理水準の維持						
関係書類の調製・保管						
3 運営管理	30年度	元年度	2年度	3年度	【30年度】イベントのつどアンケートを実施し、利用者意見の取得に努めている。遊水地のため常設店舗の設置ができない中、来園者の要望に沿ってキッチンカーの充実を図り、また、室内広場の使用方法を見直すなど、広く市民が利用しやすい施設づくりに努めている。	
利用者アンケートの実施	◎	◎	○	○	【元年度】駐車場の出庫渋滞緩和のため、臨時精算所の設置や精算所の増設を計画するなど、課題解決に向け真摯に取り組んだ。また、休館日における出勤体制を整えるなど、利用者サービスの向上に努めている。	
利用者ニーズの把握と反映					【2年度】テニスコートのクラック修繕やドッグランのフェンス嵩上げ、グリーンプラザ内男子トイレの洋式化など、利用者のニーズを反映した修繕を行った。また、BBQについては、「手ぶらでBBQ」やゴミ回収等のサービスを充実させ、近年課題となっていた近隣住民からのゴミに関する苦情がなくなったことを評価したい。	
利用者サービス向上策					【3年度】スケートパークでのヘルメット着用強化月間を実施したり、無料ロッカーや休憩コーナーの設置、タンDEM自転車増設や土日祝のキッチンカーの設置を行うなど利用者マナーや利用者サービスの向上に努めた。	
接客・接客向上の取り組み						
苦情・要望に対する適切な処理						
個人情報の適切な管理						

4 この施設特有の管理	30年度	元年度	2年度	3年度	【30年度】大幅な土壌改良や花の演出方法を見直すとともに、積極的に樹木診断を受けるなど、花木が強みの当施設を活かすための管理運営を意欲的に行っている。 【元年度】施設の特性を活かし多様なスポーツイベントを計画するとともに、トップアスリートを講師として招致するなど、魅力的な事業の実施に努めた。また、地域のイベントにも積極的に協力している。利用者の情報源を積極的にリサーチすることにより、適切な広報媒体を活用し情報発信を行っている。 【2年度】施設の特性を活かして多様なスポーツイベントを開催。スラックラインやロゲイニング等独自のコンテンツを取り入れている。スケートパークの利用者が順調に伸びており、登録者数が約1万人を達成した。また、イベント実施の際には、施設を安全に利用するための啓発を取り入れて開催している。 【3年度】樹林地再生計画を完成させ、園内樹林の過密化対策を行い、環境や生態系に配慮した維持管理に取り組んでいる。コロナ禍において、名古屋芸術大学と連携した園内マップを作成により魅力向上に努め、実施可能なイベントや講習会を開催し、過去最高の入園者124.4万人となった。また、スケートパークの登録者数が約1.3万人強となった。
緑の普及・啓発事業への取り組み					
めざす公園像への取り組み					
5 魅力増進・利用促進					
魅力の増進策	◎	◎	○	◎	
イベント等の実施					
講習会等の実施					
利用者への広報・情報提供の実施					
利用者数の増加					
6 収納金の処理業務	30年度	元年度	2年度	3年度	【元年度】スポレクシステムの適正な運用・管理を行った。 【2年度】還付事務が増大したが、適切に現金の管理、書類の作成等が行われた。 【3年度】還付事務が増大したが、適切に現金の管理、書類の作成等が行われた。
現金等の取扱い	○	○	◎	○	
関係書類の調製・保管					
7 自主事業	30年度	元年度	2年度	3年度	【30年度】パーベキューレンタル料金の見直しにより、利用者数が大幅に増加した。施設の特性を活かし、マラソン大会を多数実施した。 【元年度】パーベキュー事業者を見直し、利用者サービスの向上をはかった。また、駐車場の管理運営やパーベキュー機材のレンタル等で着実に収益を確保している。 【2年度】新型コロナウイルス対策に伴う施設の閉鎖等により収益が減少する中、全体計画の見直しを行い収益還元金を確保した。出庫口と精算機を増設し、駐車場出庫渋滞緩和に大きく寄与した。 【3年度】新型コロナウイルスの影響による施設の閉鎖等により収益が減少する中、全体計画を見直す事により収益還元金を確保した。臨時出庫口の出庫誘導により駐車場出庫渋滞緩和に寄与した。
事業計画に基づく自主事業の実施	○	○	○	○	
集客対策への効果					
自主事業の収支及び還元					
便益施設の管理運営					
8 収支	30年度	元年度	2年度	3年度	【元年度】前年度末に行った室内広場天井照明のLED化により経費削減につながっている。
経費節減策	○	○	○	○	
年間収支					
9 その他	30年度	元年度	2年度	3年度	
法令・協定の遵守	○	○	○	○	
事業計画との比較分析					
年度ごとの総合評価（所管局のコメント・特記事項等）					
平成30年度	庄内川遊水地に位置する環境の下、天候急変時等に迅速な対応を行い、安心・安全な公園管理という基本をしっかり押さえており評価できる。また、バラ園、ハナショウブ園の改善など、緑と花の質を高める努力や、健康スポーツに関する行事を増やすなど、公園の強みを活かした取り組みが積極的になされている。 園芸福祉花壇、学校との連携など幅広い協働を進めており、情報発信も有益なものになっている。また、飲食供給の不足をキッチンカーの充実で補うなどの改善についても評価したい。 今後、講習会やイベントの実施に際しては、定員と応募者数を考慮しつつ、マンネリ化しないよう、内容の更新に努めるなど、来園者の目的に合ったサービスを提供することで収益を増やすことを検討していただきたい。				
令和元年度	駐車場の混雑緩和やトイレ、パーベキューなどの施設の課題に積極的に取り組むとともに、様々なスポーツイベントを実施するなど来園者の満足度を上げる努力をしている。こうしたニーズの把握や改善を着実に実施した結果が過去最高の来園者数につながったと考えられる。 一方で、室内広場の利用者は減少傾向にあることから、利用を促進する取り組みを検討された。 また、ガマ池の池干しによる環境改善や、ケヤキ、バラなどの再生に対する積極的な取り組みも評価できることから、引き続き水質改善や美化に取り組んでほしい。 パークコンシェルジュについては、表示した自転車で巡回しており、来園者にとって分かり易いと思われることから、徒歩巡回の際もパークコンシェルジュを示した腕章等を着用してほしい。				

令和2年度	広大な敷地を活かしながら、水準表以上の除草を実施するなどして園内を快適な空間として保持することにより、コロナ禍における利用者ニーズに応じており、結果として昨年並みの入場者数が維持された。 各種スポーツ系のイベントやコンテンツの導入、手ぶらでBBQなど、施設の特性を生かした利用拡大も図られている。 また、駐車場の出庫渋滞改善や長寿命化を図るための公園灯修繕台帳の新規作成とそれに基づく修繕の実施など、施設の課題改善に取り組んでいることを評価したい。 SNSのフォロワー数が着実に伸びていることから、公園の利用促進につながる情報発信をさらに進めるとともに、今後は、講習会と展示会の現状の評価を行ったうえで、新たな企画へ積極的に入れ替えるなど、さらなる緑の普及啓発と公園の利用促進を図りたい。
令和3年度	コロナの状況に応じた対応が求められる中で、様々な感染症対策を行い、利用者の安全確保とサービスの維持に努め、名古屋芸術大学との連携事業や利用者ニーズに対応したスポーツに関連するメニューやきめ細かい快適緑地空間の促進等実施した結果、利用者の幅の拡大につながり過去最高の入園者数を記録している。また、駐車場の出庫時間の改善等、利用者のニーズに応え、さらには、生物多様性等への取組によりなごや環境大学SDG s /SDG s フィールドに登録された点は評価できる。 除草管理において、水準表以上の回数を実施し良好な状態の維持に努め、庄内緑地樹林地計画を作成し、大学等の専門家の協力を得ながら計画的な樹木管理に努めた点も評価できる。 過去最高の入園者数を記録したが、入園者が多い程コロナ感染リスクは高まるため、引き続き、細心の注意で管理運営に臨んで頂くとともに、利用目的が異なる来園者同士の円滑な調整などに留意し、引き続き、地域との連携やSNS等を活用した情報発信に取り組まれない。

3 利用状況等

具体的な取組みや成果等
バラ・菜の花・コスモス等植物管理水準の向上による花の見どころ創出や、駐車場渋滞対策への取り組みを継続し、令和3年度は過去最高の入園者数となった。 《入園者数》 平成30年度：1,077,096人 令和元年度：1,206,716人 令和2年度：1,195,936人 令和3年度：1,244,353人 《入館者数》 平成30年度：430,838人 令和元年度：482,686 令和2年度：478,374人 令和3年度：497,645人

4 収支状況等

具体的な取組みや成果等
黒字化はできなかったものの、光熱水費の削減等経費節減を継続して実施するなど、年々赤字額を縮小してきた。自主事業による収益事業還元においては、主に駐車場の管理運営に注力し還元額の確保に努めた。

5 利用者の意見や満足度等

利用者の意見や満足度等の内容・推移
講習会や運動教室の参加者の満足度は「大変満足」「満足」が指定期間を通じて97%を超えた。平成28年度に改善の要望が多かった「子どもの遊び場」「飲食施設」について対策を実施した結果、令和2年度は2項目について改善を求める意見が大幅に減少した。

6 総合評価

所管局のコメント・特記事項等
広大な芝生広場やバラ園、樹林地、各種運動施設等の多彩なポテンシャルを活かしながら、樹林地再生計画に基づく計画的な過密化対策が行われ、ガマ池を始め、池の水質改善にも着実に取り組んだ。 また、スポンサー花壇設置などの市民協働や名古屋芸術大学との連携事業の実施、庄内緑地の空間的特性に応じた豊富なスポーツプログラムの提供によりスポーツの利用促進が図られており、来園者のニーズに的確に応えた魅力的な管理運営を実施してきたことで、着実に入園者数を増やし指定期間中に過去最高の入園者数を記録した。